

無毒然レドモ堅硬ノ物不益人、殼ニ角多キアリ、無角アリ、鎌倉ノ海ニ、左顧ノ榮螺アリ、下ノ半邊ノミアリテ、小ナリ、メグリニ角アリ、イヅレモ左ノ方ニ顧ル、

〔鎌倉巡覽記三〕杜戸明神、○中 賴朝御舟あそびの時、こゝには貝の類なしとて、さゞいをおほくまかせられしに、ひだり巻にせしかば、そのさゞいみなひだり巻に成て、今にこそくひだりまさきなりとぞ、

〔出雲風土記島根郡〕凡北海所捕雜物、○中 榮螺、

〔毛吹草三〕淡路 榮螺

〔皇大神宮儀式帳〕一供奉朝大御饌夕大御饌行事事、○中

志摩國神戸百姓供進鮮匏螺等御贊乎、御机上爾備置申、○中 天照皇大神乃大御饌供奉、○下

〔大神宮儀式解六〕螺は種々にて、榮螺サタエ石炎螺ハカル大辛螺カキ、小辛螺シタエ細螺シタエあれど、こゝにいふは榮螺にて、今も國崎より乾たる榮螺を奉れり、○中 諸記文には、榮螺先とも榮螺前とも注して、佐々延佐伎とよめり、佐伎は割の意にや、

〔類聚雜要抄〕一母屋大饌

同饗應差圖 榮螺子

〔文祿三年卯月八日加賀中納言殿江御成之事〕御引物 さゞい、○下

〔催馬樂〕我家

わいへンは、とばかりちやうをも、たれたるを、おほぎみきませむ、こにせんみさかなになによけむ、あはびさだえかかせよけん、あはびさだえかかせよけん、

〔催馬樂註秘抄〕さだかいはさゝいといふ貝なるべし、

〔山家和歌集下雜〕うしまどのせとにあまのいていりて、さだえと申ものをとりて、舟にいれくし